

環境活動レポート

(対象期間：平成29年4月～平成30年3月)

平成30年8月発行

株式会社 トベ商事

目次

1.	組織の概要	
〔1〕	事業者名及び代表者名	1
〔2〕	沿革	1
〔3〕	所在地	1
〔4〕	事業活動の内容	1
〔5〕	所属団体	1
〔6〕	環境管理責任者	1
〔7〕	事業の規模	1
〔8〕	施設等の状況	
■	運搬車両の種類と台数	2
■	積替え保管施設	3
■	処理施設	4
■	処理工程図	5
〔9〕	組織図	7
〔10〕	許可番号	8
〔11〕	産業廃棄物の処理の流れ	10
〔12〕	産業廃棄物の収集運搬・処理料金	10
〔13〕	ISO14001に準拠した環境負荷低減活動実施体制	11
2.	対象範囲	11
3.	環境方針	12
4.	環境目標	13
5.	環境活動計画	14
6.	環境目標の実績	15
7.	環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	16
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無	
〔1〕	該当する環境関連法規等の遵守状況	18
〔2〕	違反、訴訟等の有無	18
9.	環境管理責任者、及び代表者による全体評価と見直し結果	19

1. 組織の概要

〔1〕 事業者名及び代表者名

株式会社 トベ商事
代表取締役 戸部 昇

〔2〕 沿革

設立年月日：昭和23年9月7日(創業：明治26年)
資本金：5百万円

〔3〕 所在地

本社：東京都北区王子5丁目10番1号
足立営業所：東京都足立区入谷8丁目10番29号

〔4〕 事業活動の内容

再資源加工：ガラスびん、缶、ペットボトル、発泡スチロール
廃プラスチック類

ガラスびん洗浄

産業廃棄物収集運搬

産業廃棄物処分業(中間処理)：選別、破砕、圧縮、熔融、減容

一般廃棄物収集運搬

一般廃棄物処分業(中間処理)

リサイクルシステムコンサルティング

〔5〕 所属団体

公益社団法人全国産業資源循環連合会

一般社団法人東京都産業廃棄物協会

東京廃棄物事業協同組合 他

〔6〕 環境管理責任者

責任者：桑子 智行 / 連絡先：03-3897-1156

〔7〕 事業の規模

- ・資源物受入量：6,292 t (平成28年9月～平成29年8月)
- ・一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬量：15,455 t (平成29年4月～平成30年3月)
- ・売上高：2,050百万円(平成28年9月～平成29年8月)
- ・従業員：158名(平成30年6月現在)

・事業所敷地面積

足立作業所	2,055 m ²	/第2作業所	1,332 m ²
第3作業所	687 m ²	/第4作業所	538 m ²
第5作業所	1,389 m ²	/第7作業所	898 m ²
第8作業所	1,172 m ²		

〔8〕 施設等の状況

■ 運搬車両の種類と台数(平成30年6月30日現在)

1. 産業廃棄物収集運搬業の用に供する運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

種類	最大積載量	最大積載可能寸法 全長×幅×高さ(m)	台数	(割合%)
全保有台数			60台	(100%)
4t コンテナ車	4,000kg	6.0×2.2×2.5	4台	(7%)
塵芥車	2,000kg	7.0×2.0×2.5	16台	(27%)
3t キャブオーバ	3,000kg	6.0×2.0×2.0	10台	(17%)
2t キャブオーバ	2,000kg	5.0×2.0×2.0	19台	(32%)
軽トラック	350kg	3.5×1.5×2.0	4台	(7%)
2t ダンプ車	2,000kg	5.0×2.0×2.0	1台	(2%)
バン	13,000kg	12.0×2.5×4.0	2台	(3%)
冷凍冷蔵車	3,000kg	6.5×2.0×3.0	4台	(7%)
運搬車の排ガスレベル			台数	(割合%)
全保有台数			60台	(100%)
平成12年基準適合/排出ガスPM75%低減ディーゼル車☆☆☆			3台	(5%)
平成12年基準適合/排出ガスPM85%低減ディーゼル車☆☆☆☆			6台	(10%)
平成12年基準適合/排出ガス50%低減車☆☆			1台	(2%)
平成17年基準適合/PM10%低減重量車☆			5台	(8%)
平成17年基準適合/NOx・PM10%低減重量車★			6台	(10%)
平成19年規制適合車			2台	(3%)
平成19年基準適合/排出ガス50%低減車☆☆☆			2台	(3%)
平成21年度基準NOx10%低減車			11台	(10%)
平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆			15台	(25%)

2. 産業廃棄物収集運搬業の用に供する運搬車に係る低燃費車の導入状況

運搬車の燃費低減レベル	台数	(割合%)
全保有台数	60台	(100%)
平成27年度燃費基準達成車	22台	(37%)
平成27年度燃費基準5%向上達成車	2台	(3%)

3. 産業廃棄物収集運搬業(積替え保管を含む)又は処分業の用に供する低公害型重機の導入状況

低公害型重機の導入状況	台数	(割合%)
全保有台数	15台	(100%)
排ガス対策型	0台	(0%)
低騒音・低振動型	0台	(0%)
その他電気駆動型等	3台	(20%)

■ 積替え保管施設(第2作業所)

施設の面積 : 1,332 m²

最大保管高さ : 1.3m

産業廃棄物の種類	保管量	
汚泥、金属くず(廃乾電池(水銀使用製品産業廃棄物を除く)に限る)	ベール缶 3個	0.06 m ³
汚泥、金属くず(水銀電池、空気亜鉛電池(水銀使用製品産業廃棄物)に限る)	ベール缶 1個	0.02 m ³
廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光灯(水銀使用製品産業廃棄物)に限る)	プラスチック容器 6個	1.50 m ³
廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光灯、HIDランプ、放電ランプ(水銀使用製品産業廃棄物)に限る)	プラスチック容器 2個	0.39 m ³
	保管量合計	1.97 m ³

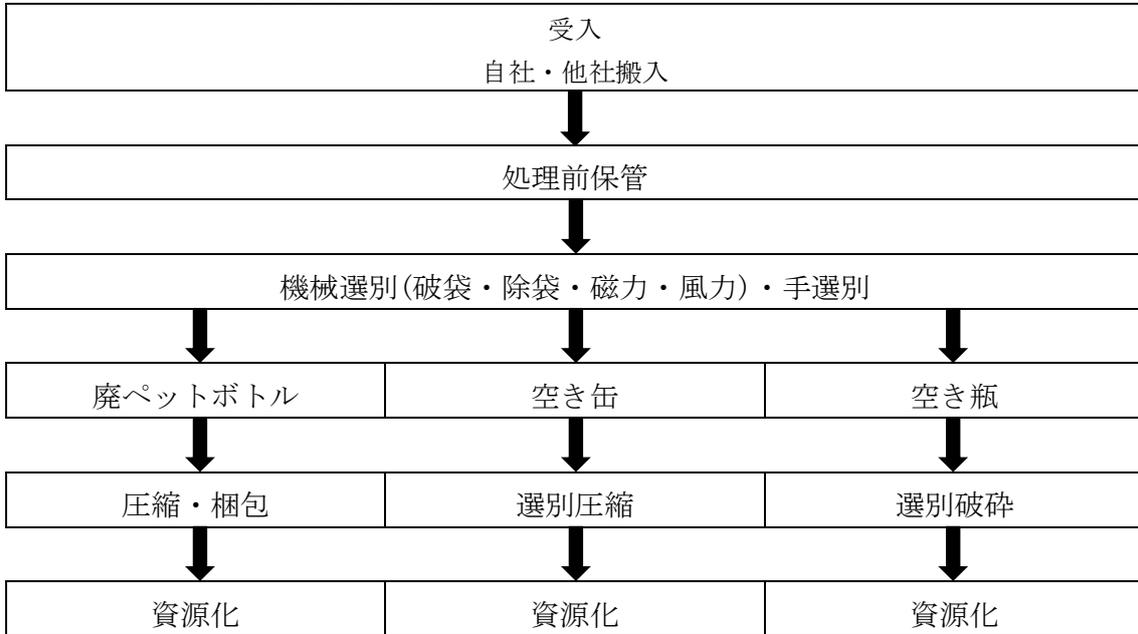
■ 処理施設

施設名	施設種類	産業廃棄物の種類	処理能力
足立作業所	選別破砕	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(空き瓶に限る)	5.24(t/日)
	選別破砕	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(空き瓶に限る)	10.4(t/日)×3台
	選別圧縮	金属くず(空き缶に限る)	14.0(t/日)
			27.7(t/日)
	圧縮・梱包	廃プラスチック類(廃ペットボトルに限る)	14.2(t/日)
第2作業所	圧縮・梱包	廃プラスチック類	4.91(t/日)
		紙くず	10.3(t/日)
		金属くず	16.0(t/日)
	圧縮・梱包	廃プラスチック類	4.00(t/日)
	破砕	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	5.24(t/日)
第3作業所	破砕	廃プラスチック類(廃ペットボトルに限る)	28.0(t/日)
第4作業所	破砕1	廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(廃蛍光灯(水銀使用製品産業廃棄物)に限る)	16,000本/日
	破砕2	廃プラスチック類	2.99(t/日)
		紙くず	4.71(t/日)
		木くず	2.57(t/日)
		繊維くず	1.02(t/日)
		ゴムくず	4.45(t/日)
		金属くず	9.68(t/日)
		ガラス・コンクリート・陶磁器くず	8.56(t/日)
	溶融1	廃プラスチック類(廃発泡スチロールに限る)	0.32(t/日)
	溶融2	廃プラスチック類(廃発泡スチロールに限る)	0.66(t/日)
第8作業所	破砕	廃プラスチック類(廃ペットボトルに限る)	1.23(t/日)×3台
	圧縮・梱包	廃プラスチック類(廃ペットボトルに限る)	4.80(t/日)

■ 処理工程図(平成 30 年 6 月 30 日現在)

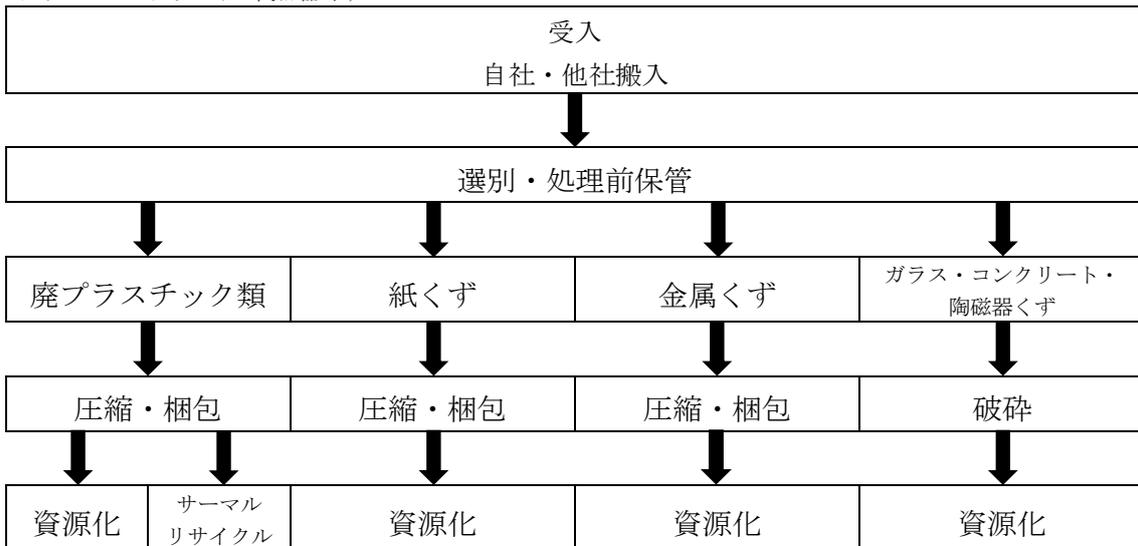
足立作業所処理工程

廃プラスチック類(廃ペットボトル)
 金属くず(空き缶)
 ガラス・コンクリート・陶磁器くず(空き瓶)



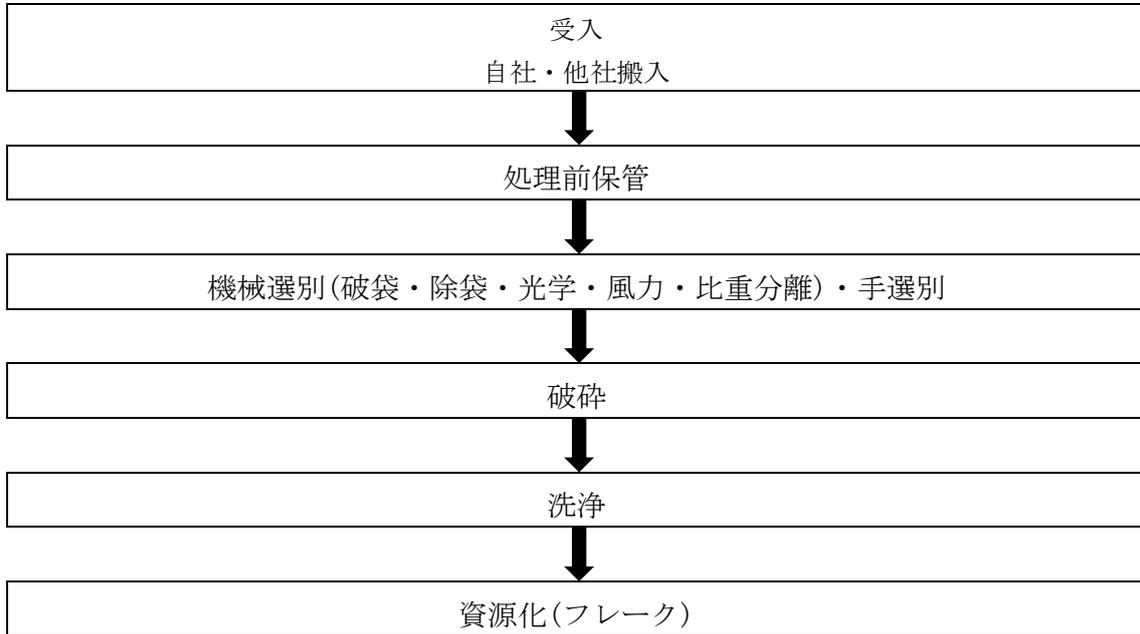
第 2 作業所処理工程

廃プラスチック類
 紙くず
 金属くず
 ガラス・コンクリート・陶磁器くず



第3 作業所処理工程

廃プラスチック類(廃ペットボトル)



第4 作業所処理工程

廃プラスチック類

紙くず

木くず

繊維くず

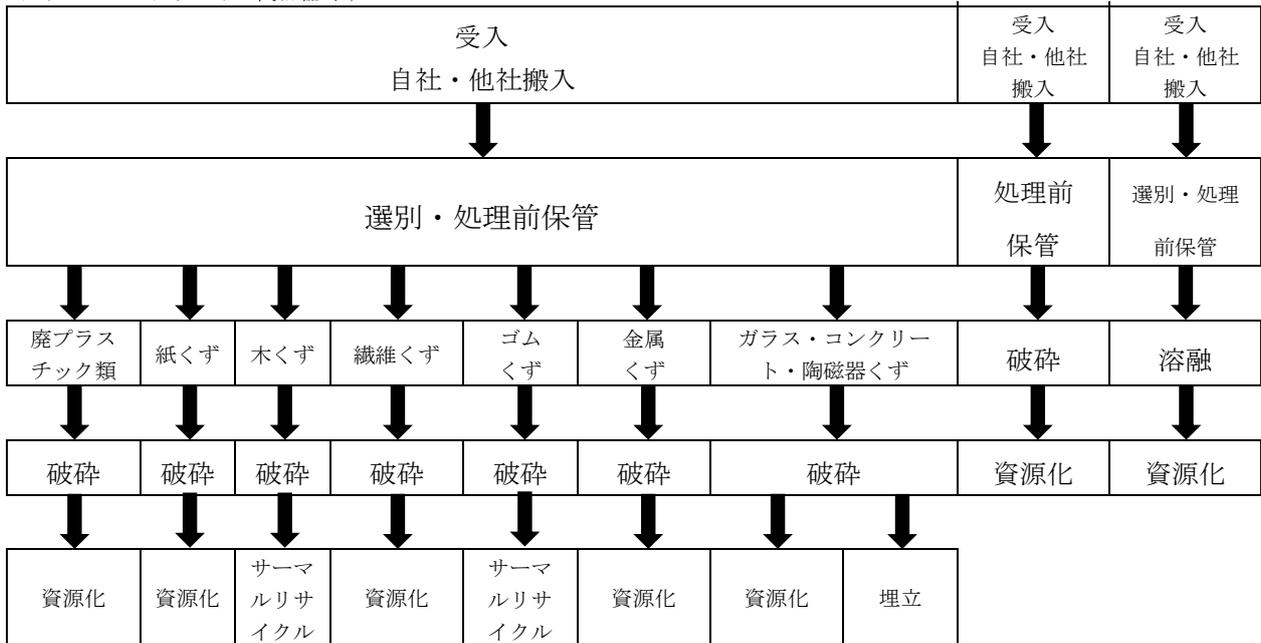
ゴムくず

金属くず

ガラス・コンクリート・陶磁器くず

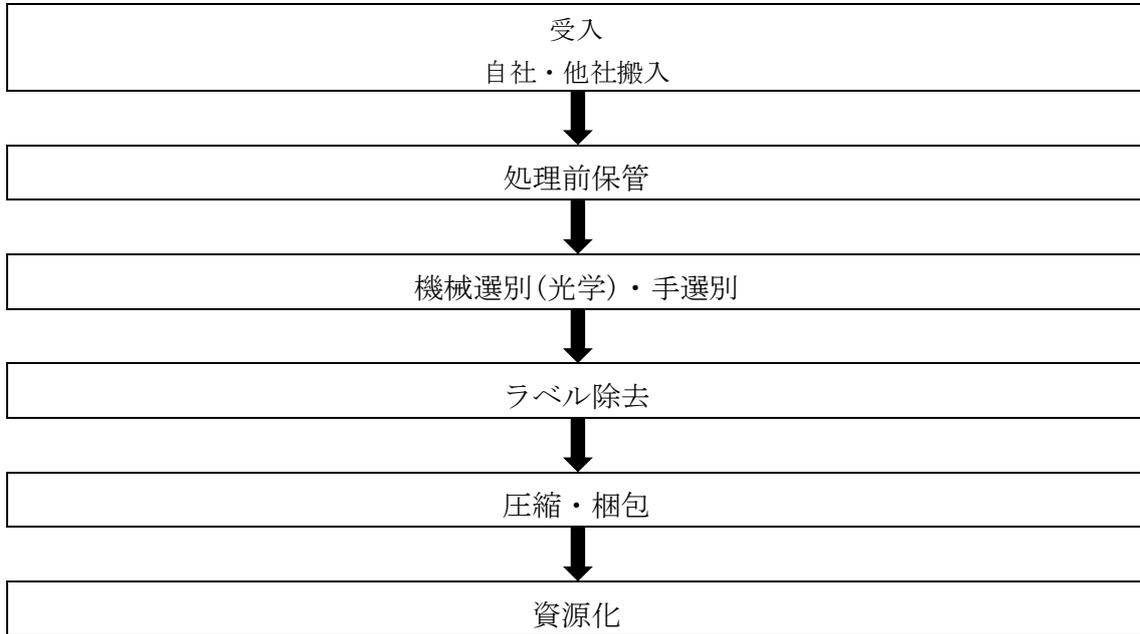
ガラス・コン
クリート・陶
磁器くず
(水銀使用製
品産業廃棄
物に限る)

廃プラスチ
ック類
(廃発泡スチ
ロール)



第8 作業所処理工程

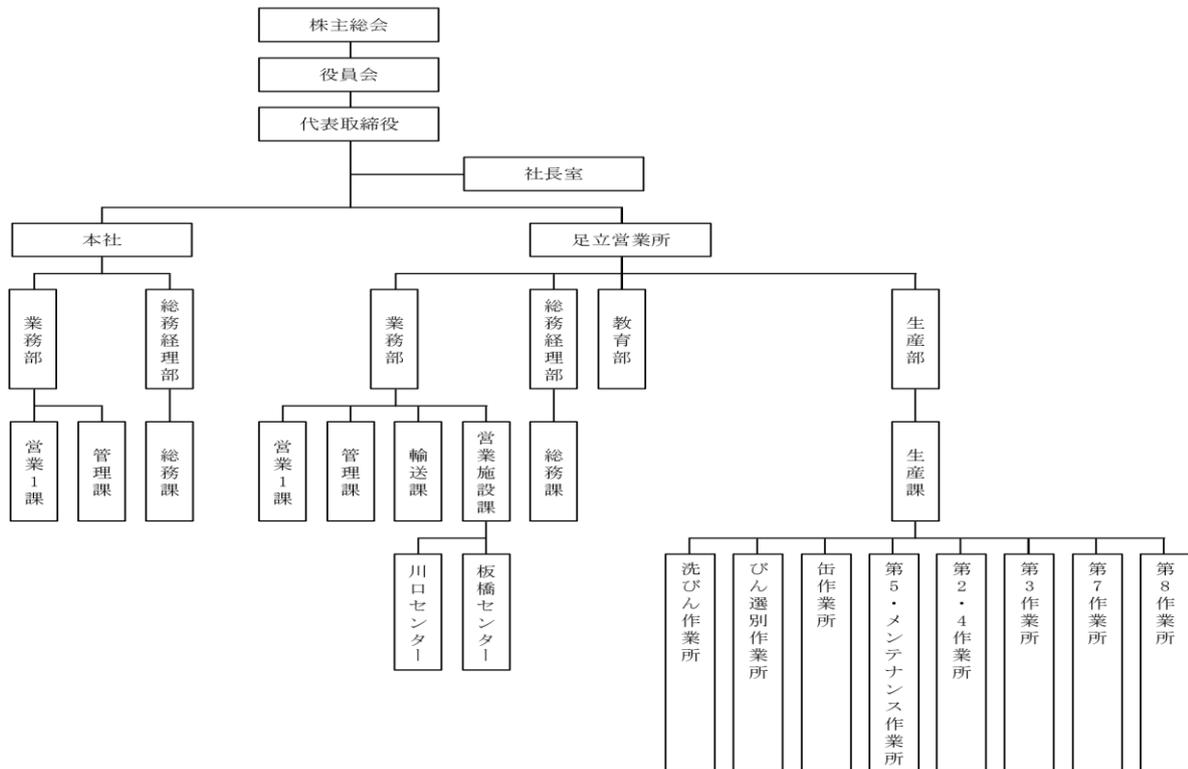
廃プラスチック類(廃ペットボトル)



〔9〕 組織図

株式会社トベ商事 組織図

平成30年6月30日 現在

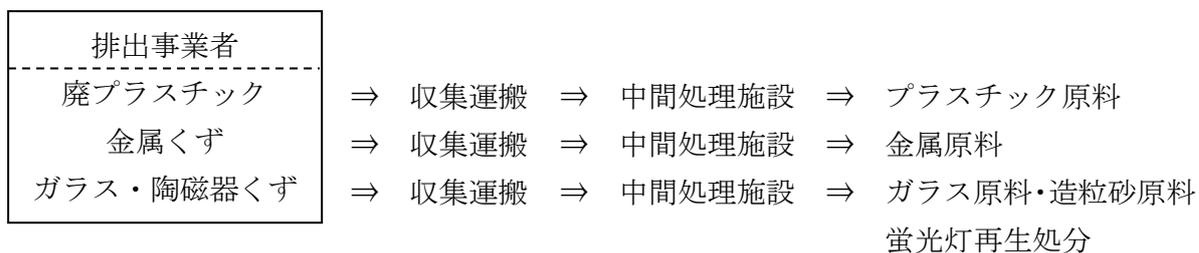


[10] 許可番号

区分	廃棄物の種類	許可自治体	許可番号	有効年月日
産業廃棄物 収集運搬業	燃え殻、廃油、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず(自動車破砕物を除く。)、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(自動車破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く。)/10種類	茨城県	第00801026955号	平成32年4月27日
	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む)、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を含む)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む)/10種類	栃木県	第00900026955号	平成31年11月4日
	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む)、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を含む)/3種類	群馬県	第01000026955号	平成33年11月21日
	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む)、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く。)及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を含む)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む)/10種類	埼玉県	第01101026955号	平成33年6月30日
	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む、自動車等破砕物を除く)、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず(自動車等破砕物を除く)、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を含む、自動車等破砕物を除く)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む)/10種類	千葉県	第01200026955号	平成34年8月18日
	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類 (石綿含有産業廃棄物を含む) (水銀使用製品産業廃棄物を含む)/10種類	東京都	第13-10-026955号	平成33年9月29日
	積替え保管できる産業廃棄物の種類 汚泥、廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(水銀使用製品産業廃棄物を含む) /4種類			

	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む。)、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を含む。)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む。)/10種類	神奈川県	第01403026955号	平成33年3月28日
産業廃棄物 処分業	<p>破碎：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず(水銀使用製品産業廃棄物を含む)</p> <p>選別破碎：ガラス・コンクリート・陶磁器くず(空き瓶に限る)</p> <p>圧縮・梱包：廃プラスチック類、紙くず、金属くず</p> <p>選別圧縮：廃プラスチック類(廃ペットボトルに限る)、金属くず(空き缶に限る)</p> <p>溶融：廃プラスチック類(廃発泡スチロールに限る)</p>	東京都	第13-20-026955号	平成33年9月29日
一般廃棄物 収集運搬業	普通ごみ・廃家電 道路・公園ごみ	東京23区 清掃協議会	第1136号	平成31年7月31日
	ごみ・粗大ごみ	川口市	第74号	平成32年3月31日
	事業ごみ・紙ごみ 木くず・廃家電	さいたま市	第354号	平成31年9月30日
一般廃棄物 処分業 (中間処分)	道路・公園ごみ	東京23区 清掃協議会	第1409号	平成31年10月31日
廃棄物処理 施設設置許可	<p>破碎処理施設</p> <p>廃プラスチック類(ペットボトルに限る)</p>	東京都	産施第294号	
廃棄物再生 事業者登録	空ビン・空缶	東京都	第15号	
	廃プラスチック		第212号	
	廃プラスチック(ペットボトル)		第247号	
	空ビン		第222号	
	廃プラスチック・紙くず・木くず		第211号	
	古紙		第359号	

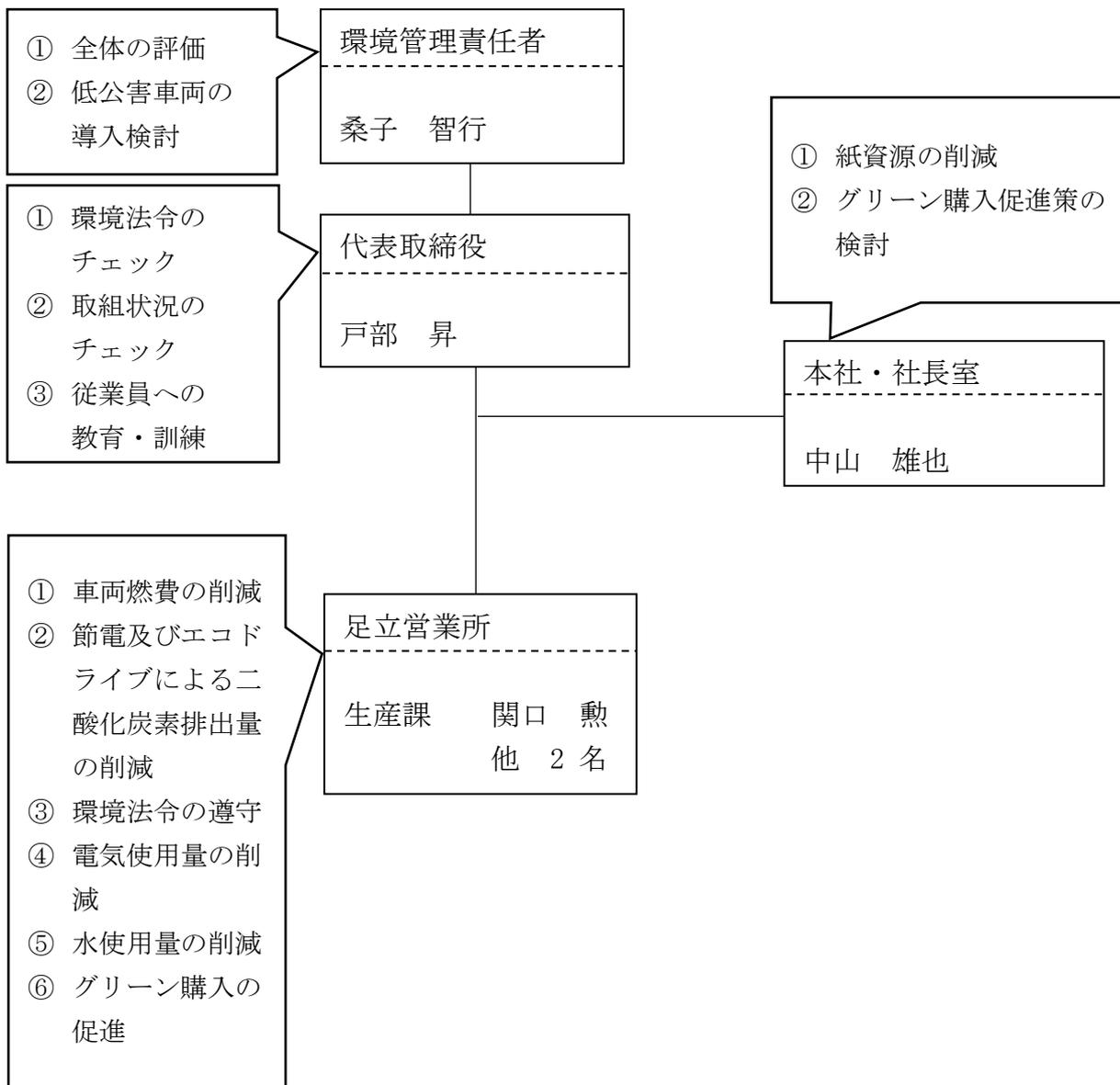
〔11〕 産業廃棄物の処理の流れ



〔12〕 産業廃棄物の収集運搬・処理料金

- ・ 産業廃棄物の収集運搬・処理料金につきましては、廃棄物の種類、性状、量、回収の距離によりお見積りいたします。
- ・ お見積りについては無料です。
- ・ 弊社営業部宛 (TEL 03-5902-3202)、または弊社ホームページのお問合せ画面からご相談をお願いいたします。

〔13〕 ISO14001 に準拠した環境負荷低減活動実施体制



2. 対象範囲

組織名：株式会社 トベ商事

対象事業所：本社(東京都北区王子5丁目10番1号)

足立営業所(東京都足立区入谷8丁目10番29号)

対象とする活動：再生資源取扱、産業廃棄物収集運搬及び処分業

一般廃棄物収集運搬及び処分業

3. 環境方針

当社は、リサイクル事業を通じて、循環型社会の構築に貢献します。

1. 品質改善

リサイクルの製品及びサービスの品質を改善し、お客様に安定供給できるよう努めます。

2. 環境改善

水処理などの環境汚染の予防及び資源の有効活用を推進するとともに、お客様の製品や活動の環境負荷軽減に努めます。

3. 法令順守

事業活動に関わる全ての法令及び当社で定めた要求事項を順守します。

私たちは、環境パフォーマンス向上のために、環境目標を定め、マネジメントシステムを継続的に改善します。

制定：平成 19 年 10 月 7 日

改定：平成 29 年 6 月 21 日

株式会社 トベ商事
取締役副社長 戸部智史

4. 環境目標(過去の実績及び中長期目標)

環境方針及び環境負荷の自己チェック結果を基に、下表の通り環境目標を設定

	環境目標	2014年度	2015年度	2016年度 基準年度	2017年度 対象年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	電気使用量の削減 (千kWh)	1157.5	1096.3	1171.1	目：1159.4 実：1190.3	1178.4	1166.6	1154.9
2	ガソリン使用量の削減 (kL)	41.80	30.52	27.15	目：26.88 実：25.51	25.25	25.00	24.75
3	軽油使用量の削減 (kL)	233.46	334.11	340.80	目：337.39 実：380.17	376.4	372.6	368.9
4	天然ガス使用量の削減 (百m ³)	279.09	183.78	131.46	目：130.14 実：183.69	181.9	180.0	178.2
5	LPG使用量の削減 (kL)	29.09	41.41	49.00	目：48.51 実：46.00	45.54	45.08	44.63
6	二酸化炭素排出量の削減 (t-CO2)(注1)	1,531	1,748	1,789	目：1,771 実：1,872	1,853	1,835	1,817
7	水使用量の削減 (m ³)	13,149	16,497	16,928	目：16,759 実：18,057	17,876	17,698	17,521
8	再資源化物取扱量の増大 (t)	6,988	6,879	6,857	目：6,926 実：6,292	6,355	6,418	6,482
9	グリーン購入の推進(事務用 エコ商品の購入比率の拡大) (%)(注2)	50	61	63	目：65 実：66	70	72	74

※削減目標は前年度比1%削減、増大・拡大目標は前年度比1%増大として設定。

※目：目標値、実：実績値

※目標達成は 、不達成は で表現

(注1)電気使用量に対する二酸化炭素排出量は、東京電力エナジーパートナー(株)
のCO2排出係数0.474(kg-CO2)/kWhを用いて算出

(注2)購入比率(%)=エコ事務用品の全購入費/事務用品の全購入費×100

5. 環境活動計画

(取組み期間：2017年4月～2018年3月)

	環境目標	環境活動の具体的な取組	実施責任者
1	電気使用量の削減	① 不要照明の消灯 ② エアコンの温度設定(冬23℃、夏27℃) ③ LED照明の導入 ④ 外気、太陽光の取入	環境管理責任者
2	ガソリン・軽油・LPG・天然ガス使用量の削減	① エコドライブの徹底 ② 低公害車の導入を検討する ③ 定期的な運搬車両の整備 ④ 収集運搬ルート効率化	車両管理責任者
3	水使用量の削減	① 水道蛇口の開放抑制 ② 洗物はまとめて行う ③ 洗車時の水使用量の削減	環境管理責任者
4	再資源化物取扱量の増大	① 既存の取引事業者へのこまめな営業活動 ② 新規顧客の開拓及び入札への積極的な参加 ③ 回収した資源化物の分別の徹底	営業部門責任者
5	事業系一般廃棄物排出量の削減	① 事前確認によるコピーミス防止 ② 裏紙利用の励行(メモ帳、両面コピー等)の励行 ③ 再資源化物の分別の徹底 ④ マイカップ、マイ箸、マイ手拭の推進	社長室責任者
6	産業廃棄物排出量の削減	① 再使用の推進 ② 廃棄物の分別の徹底	環境管理責任者
7	グリーン購入の推進	① 使用可能なエコマーク尽き事務用品の把握 ② 事務用エコ商品の積極的な使用	社長室責任者

6. 環境目標の実績

2017年度の環境目標の実績及び評価

	環境目標	基準年度実績 2016年度	2017年度		評価
			目標	実績	
1	電気使用量の削減 (千kWh)	1171.1	基準年度比1%削減 1159.4	1190.3 (1.6%↑)	△
2	ガソリン使用量の削減 (kL)	27.15	基準年度比1%削減 26.88	25.51 (6%↓)	○
3	軽油使用量の削減 (kL)	340.80	基準年度比1%削減 337.39	380.17 (11%↑)	×
4	天然ガス使用量の削減 (百m ³)	131.46	基準年度比1%削減 130.14	183.69 (40%↑)	×
5	LPG使用量の削減 (kL)	49.00	基準年度比1%削減 48.51	46.00 (6%↓)	○
6	二酸化炭素排出量の削減 (注1)(t-CO ₂)	1,789	基準年度比1%削減 1,771	1,872 (4.6%↑)	△
7	水使用量の削減 (m ³)	16,928	基準年度比1%削減 16,759	18,057 (7%↑)	△
8	再資源化物取扱量の増大 (t)	6,857	基準年度比1%増大 6,926	6,292 (8%↓)	△
9	グリーン購入の推進(事務用 エコ商品の購入比率の拡大) (%) (注2)	63	基準年度+2%増大 65	66 (4.7%↑)	○

※評価欄は、目標達成で○印、目標不達成だが目標値との差異が10%以内は△印、10%以上は×印を記入。

(注1)電気使用量に対する二酸化炭素排出量は、東京電力エナジーパートナー(株)のCO₂排出係数0.474(kg-CO₂)/kWhを用いて算出

(注2)購入比率(%)=エコ事務用品の全購入費/事務用品の全購入費×100

7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

	環境目標	環境活動計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
1	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ① 不要照明の消灯 ② エアコンの温度設定 (冬23℃、夏27℃) ③ LED照明の導入 ④ 外気、太陽光の取入 	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般電灯はLED照明に取替したので目標を大幅に達成した。他方で、動力については目標を達成できず、増加してしまっている。しかし、概ね現状維持であるので、来年以降も継続して電力量削減に向けて、機械の作業を集中させる等の対策を講じていく。 ② 夏季におけるエアコン温度の設定を見直すことが必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 節電の取組は継続して行っていく。 ② LED照明を導入したため本社・作業所ともに電力削減に向かっていく。今後新規に照明を設置する場合もLED照明としていく。 ③ 夏季エアコン使用時の設定温度を1℃上げる。 ④ さらに電気使用量を削減する取組としては太陽光の導入を検討する。
2	ガソリン・軽油・LPG・天然ガス使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ① エコドライブの徹底 ② 低公害車の導入を検討する ③ 定期的な運搬車両の整備 ④ 収集運搬ルート効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ① ガソリン・LPGは目標を達成できている。特にガソリンは2014年度比で大幅に削減できている。 ② 軽油・天然ガスは増加しているが、これは顧客の増加に伴って、収集範囲・時間が拡大したため。 	<ul style="list-style-type: none"> ① エコドライブの徹底・低公害車の導入・収集運搬ルート効率化を引き続き進め、範囲が拡大してもその中で効率的な運用を追求していく。 ② 燃料は個別の項目だけ見て増減を見るのは適切ではないので、CO2排出量や原油換算量の合計を指標とする。本社・事務部門、収集運搬部門、中間処理部門など部門ごとに点検することを検討する。 ③ 個別の燃料についても収集運搬では単位量あたりの走行距離、中間処理では総処理量との相関関係をデータとしてとり、内容が改善されているか検討する。
3	水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ① 水道蛇口の開放制御 ② 洗物はまとめて洗いをする ③ 洗車時の水使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本社・事務所での使用量は多くはなく、変動も少ない。 ② 作業所の大半では減少していたが、2箇所が増えたため全体では増加してしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本社・事務所では節水を継続する。 ② 作業所では機械の作動用・収集運搬車やコンテナの洗浄等を行う必要があるが、時間を集中させて行うなど、節水へ努力する。

4	再資源化物取扱量の増大	<ul style="list-style-type: none"> ① 既存取引事業者へのこまめな営業活動 ② 新規顧客の開拓及び入札への積極的な参加 ③ 回収した資源化物の分別の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ① ビンは社会的な流れとして使用量が減少しつつあり、取扱量も減りつつある。 ② 缶は重量ベースでは減少している。これはスチール缶からアルミ缶への移行が進んでいるのが一つの原因。 ③ ペットボトルの取扱量は、2倍近くに増えている。これは新規顧客の開拓が功を奏していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 容器は軽量化されているので重量ベースでは取扱量が減少しているように見える。指標として総量は重要なデータだが、ビン・缶・ペットボトル1本あたりの平均的な重量から総取扱本数などを把握することも必要と思われる。 ② リサイクル率も高く維持しているように努める。
5	事業系一般廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ① 事前確認によるコピーミス防止 ② 裏紙利用(個人情報等が記載されている紙は使用不可)の励行 ③ 再資源化可能物の分別の徹底 ④ マイカップ、マイ箸、マイ手拭の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 不要な紙類は捨てずに古紙で分別する取組は変わらず続けている。 ② 両面印刷を徹底することなどで紙資源使用量を減らせている。 ③ マイコップを使うことで紙コップ使用量を減らすことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き片面コピー・両面コピー・封筒等に分別して、紙類のリサイクルを徹底する。
6	産業廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ① 再使用の推進 ② 廃棄物の分別の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ① 分別の意識付けが進められてことでリサイクル率をより高められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 混合廃棄物を排出する事業者や蛍光灯を割るなど再資源化率を下げるか、あるいは環境負荷の高い排出を行っている事業者に、分別及びより環境負荷の低い排出方法の提案を引き続き行っていく。
7	グリーン購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 使用可能なエコマーク付き事務用品の把握 ② 事務用エコ商品の積極的な使用 	<ul style="list-style-type: none"> ① エコマーク付きの事務用品を積極的に使用するよう指示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① グリーン購入基本方針に基づいて、引き続きエコ商品の購入及び使用を徹底する。 ② 電気の供給業者をグリーン電気供給業者にしていく。 ③ 照明はLEDを導入している。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに
違反・訴訟等の有無

〔1〕 該当する環境関連法規等の遵守状況

No.	法令・条例等の名称	遵守状況の確認・評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
2	東京都廃棄物条例及び東京23区各区廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例等	○
3	道路交通法	○
4	自動車NOx・PM法	○
5	騒音規制法	○
6	下水道法及び東京都下水道条例	○
7	消防法及び東京都火災予防条例	○
8	都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(東京都環境確保条例)	○
9	グリーン購入法	○
10	その他環境関連法規	○

〔2〕 違反、訴訟等の有無

法令等の一覧表を作成し定期的に遵守状況をチェックすることで、違反等がないことを確認している。

なお、これらの法令に対する関係当局からの違反の指摘及び関連する訴訟等は過去3年間ありません。

9. 環境管理責任者、及び代表者による全体評価と見直し結果

全体の取組状況及び評価結果	
(環境管理責任者記述)	
① 環境目標の達成状況と評価	顧客の増加に伴って回収場所・時間ともに拡大したため燃料使用量が全体的に増加し、目標値を上回ってしまった。現状での使用量を削減する取組を進めていくとともに、今後の状況を鑑みて目標値の適正な見直しなども検討する必要がある。
② 環境活動計画の達成状況と評価	再資源物の総重量はスチール缶からアルミ缶への変更、あるいはペットボトルの薄型化など素材の軽量化が進められていることもあって、減少している。総本数など自体は増加傾向にあるので、環境活動自体としては順調に進められているといえる。
③ 環境関連法規等の遵守状況	法規違反・訴訟等は発生していない。今後ともコンプライアンスには留意して、会社・従業員ともに違反を起こさない教育などをさらに進めていく。
④ 問題点の是正及び予防処置の状況	適切な対応をとるためデータは常に取り続け、適宜目標値の見直しが行えるようにしていく。
⑤ 外部からの苦情・要望とそれへの対応状況	苦情は発生していないが、要望に対しては適切に対応している。廃棄物処理業は近隣のご理解を頂くことも重要であるので、適宜きめ細かい対応を心がけていく。
⑥ 環境経営システムの適切性、妥当性及び有効性	環境経営システムは機能していると判断でき、今後も継続する。
変更の必要性の有無及び指示事項等	
(代表者記述)	
① 環境方針	(変更の必要性 : 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>)
② 環境目標	(変更の必要性 : 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>)
③ 環境活動計画	(変更の必要性 : <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>)
④ 環境経営システムの各要素	(変更の必要性 : <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>)
〈指示事項等〉	
今後の環境目標及びその達成状況については、進捗管理表を使って評価を行うことにする。	